

第 2 章

はじめての育児生活

宮本 幸子



第 1 章

第 2 章

第 3 章

第 4 章

第 5 章

第 6 章

資料編

母親の子育て意識・行動

母親たちはそれぞれ置かれた状況のなかで、悩みやストレス・不安感を抱え、さまざまな人に相談しながら乗り越えている。

夫より妻のほうが、育児でストレスを感じる人が多い

第 1 節では、母親の子育て意識・行動についての分析を行う。

図 2-1-1 は、子育て生活での経験とストレスである。本調査では、乳幼児のいる生活のなかでストレスになり得る 12 項目について、経験の有無を聞き、「経験したことがある」場合にはストレスの強度をたずねている。ただし図 2-1-1 では、「イライラする」の比率も有効回答全体を母数にして算出している。

妻の数値をみると、経験率として高い項目は、「あなたがおもちゃや散らかっているものを片付け続けている (91.4%)」「子どもに遊んでとせがまれる (76.6%)」「自分のための時間を確保するのが難しい (75.5%)」などである。一方、ストレスを感じる人が多い項目は、「自分のための時間を確保するのが難しい (39.6%)」「子どもに文句や不平を言われたり、駄々をこねられたりする (34.7%)」「夜泣きがひどい (26.7%)」などである。

「片付け続ける」「遊んでとせがまれる」は、多くの母親が経験しているものの、必ずしもストレスにつながるわけではない。反対に、「駄々をこねられる」「夜泣き」は、経験率は 4～6 割程度にとどまるものの、経験者に

ってはストレスにつながりやすいことがわかる。

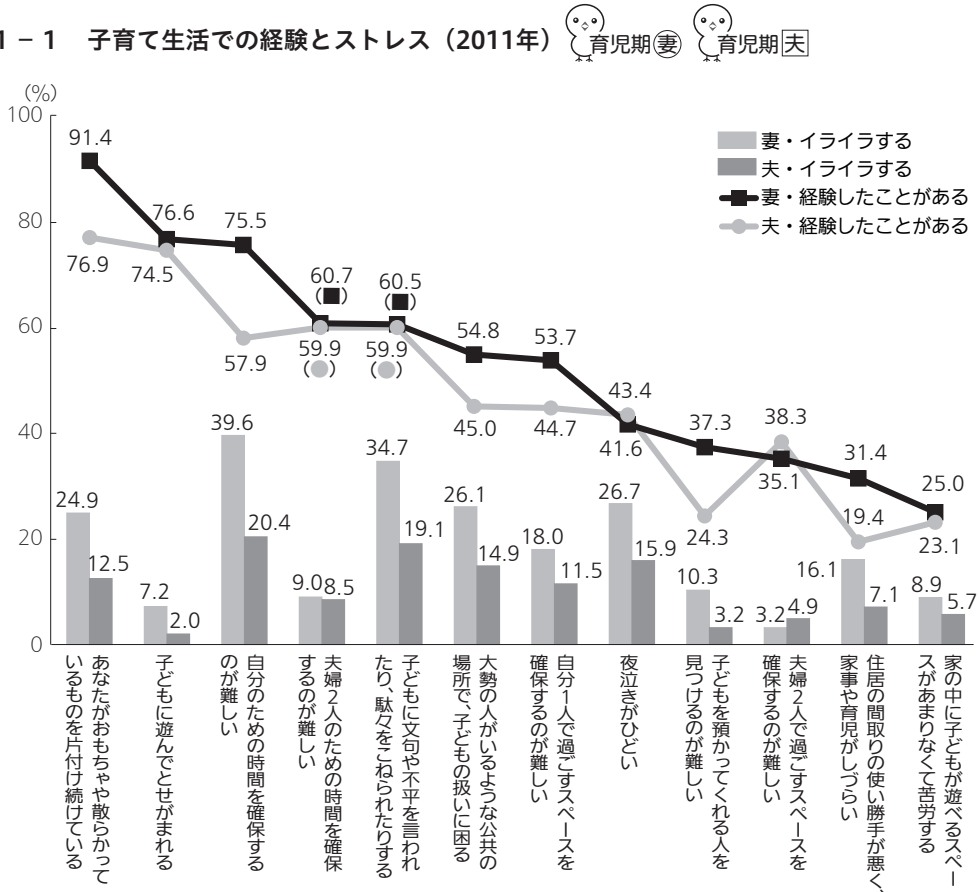
また夫と比べて、妻のほうが経験率・ストレスともに高い傾向にある。「駄々をこねられる」「夜泣き」は、妻・夫の間で経験率にほとんど差がないものの、ストレスに感じている人の比率は妻のほうが高くなっている。経験の頻度や子どもと接する時間の長さが影響していると考えられる。

0 歳児より 1 歳児・2 歳児の母親のほうが、ストレスを抱える人が多い

図 2-1-1 のうち、子どもの言動から感じるストレス (6 項目) にしぼって、子どもの年齢別にみたのが、図 2-1-2 である。これをみると、多くの項目で、子どもの年齢が高いほど、「イライラする」人の比率が高くなっている。たとえば「駄々をこねられる」でストレスを感じる比率は、0 歳児 11.5% < 2 歳児 65.2%、「片付け続ける」では 0 歳児 10.5% < 2 歳児 49.8%、などとなっている。0 歳児の母親に比べて 1 歳児、2 歳児の母親のほうが、子どもの言動からストレスを抱える機会が多いことがわかる。

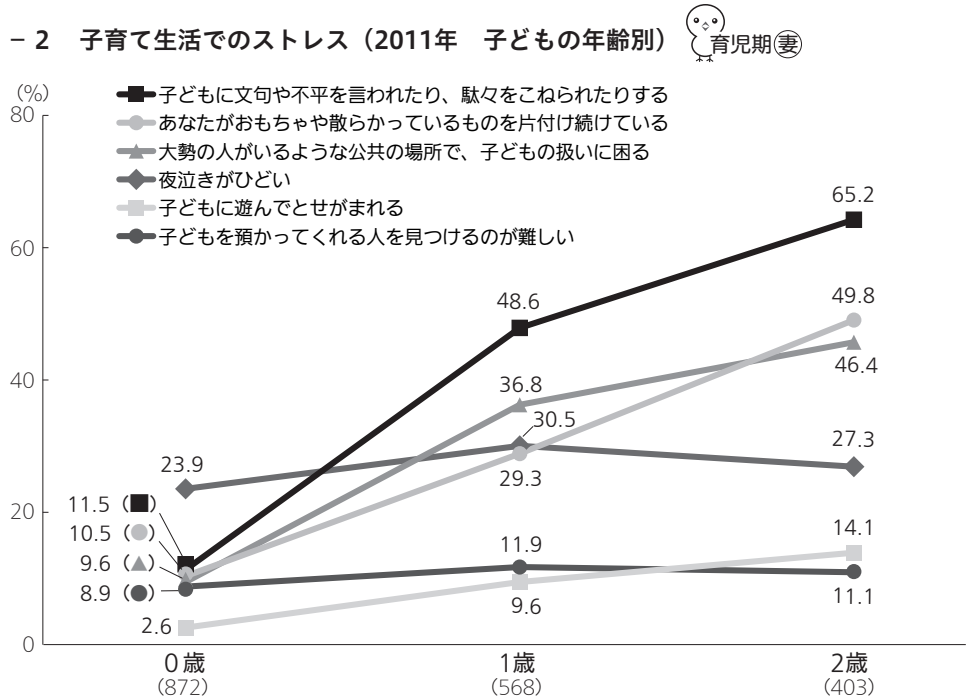
なお、妻の年齢別、仕事の有無別などでは明らかな差はみられなかった (図表省略)。

図2-1-1 子育て生活での経験とストレス（2011年）



注) 「イライラする」 = 「非常にイライラする」 + 「ややイライラする」の%。「イライラする」は「経験したことがある」人のみ回答しているが、ここでの%は有効回答全体を母数にして算出している。

図2-1-2 子育て生活でのストレス（2011年 子どもの年齢別）



注1) 「非常にイライラする」 + 「ややイライラする」の%。「イライラする」は「経験したことがある」人のみ回答しているが、ここでの%は有効回答全体を母数にして算出している。

注2) 12項目中、6項目を图示。

注3) () 内はサンプル数。

子育ての悩みは、子どもの年齢によって異なる

続いては、子育ての悩みをみていく。表2-1-1は、現在悩んでいることを複数回答でたずねた結果を、子どもの年齢別にまとめたものである。

0歳児でもっとも多いのは、「生活リズムが規則的にならない」30.4%である。「離乳食・幼児食の与え方がわからない」27.5%が続く。「離乳食・幼児食の与え方がわからない」は1・2歳児と比べても高く、はじめての子育てで直面する、0歳児期特有の悩みであることがわかる。

1歳児では、「トイレトレーニングの時期・やり方がわからない」が46.3%ともっとも多く、0歳児より約35ポイント高い。また、「性質や性格が気になる」が0歳児17.0%<1歳児25.2%と増えたり、「言葉の遅れが心配だ(16.4%)」が1歳児は0歳児・2歳児と比較して高くなっていたりと、子どもの発達にともなう悩みが大きいのが特徴である。1歳児期の発達は個人差も大きく、はじめての子育てでは気になる人が多いのだろう。

2歳児では、「トイレトレーニング」が40.9%ともっとも高く、「生活リズム(35.0%)」「性質や性格が気になる(27.8%)」と続いている。その他の項目はほとんど0歳児・1歳児より低い数値となっている。

仕事をしていない母親は悩みが多い

子育ての悩みは、母親自身の状況によっても異なる。表2-1-2は、悩みを母親の就業状況別にみたものである。子どもの年齢によって悩みは大きく異なるので、ここでは悩みが多岐にわたる1歳児に限定して分析をしている。

1歳児でもっとも大きな悩み「トイレトレーニング」は、現在仕事をしている母親は33.8%であるのに対して、現在仕事をしていない母親(無職、休職中)の場合は53.3%と、20ポイント近い差がみられる。日ごろ子どもと接する時間の長い母親のほうが、よりトイレトレーニングの悩みは深いようである。仕事をしている母親の場合、預かり先(保育園など)のペースでトイレトレーニングが進むという事情もあるだろう。

全体的に無職の母親は悩みが多く、「生活リズム」「言葉の遅れ」「テレビやビデオの見せ方」なども、ほかの群より数値が高くなっている。

以上、子どもの年齢や母親の就業状況によって、悩みの種類も異なっていることが明らかになった。はじめての子育てではもちろんわからないことも多いだろう。しかし、同じ年齢でも子どもそれぞれの成長のしかたがある。それが親自身の理想と異なっていて悩みにつながる場合もあるのではないだろうか。母親自身も、社会も、多様な子どもの育ちを理解し、それに寛容であることが求められているといえよう。

表2-1-1 子育ての悩み（2011年 子どもの年齢別）



(%)

| | 0歳 (872) | 1歳 (568) | 2歳 (403) |
|-----------------------------------|-------------|-------------|-------------|
| トイレトレーニングの時期・やり方がわからない | 10.8 | ① 46.3 | ① 40.9 |
| 生活リズムが規則的にならない (起床、就寝、睡眠リズムなど) | ① 30.4 | ③ 21.7 | ② 35.0 |
| ○○ちゃんの性質や性格が気になる | ③ 17.0 | ② 25.2 | ③ 27.8 |
| テレビやビデオの見せ方がわからない | 16.2 | 14.6 | 9.4 |
| 言葉の遅れが心配だ | 1.1 | 16.4 | 8.7 |
| 体重が増えない | 10.9 | 10.9 | 7.9 |
| 安全な外遊びの場所がない | 9.6 | 7.2 | 7.9 |
| アレルギー（アトピーやぜんそくなど）のことで困っている | 8.8 | 9.3 | 6.7 |
| おもちゃや絵本の与え方がわからない | 14.9 | 7.7 | 5.5 |
| 体重が多すぎる | 6.3 | 4.4 | 4.0 |
| 離乳食・幼児食の与え方がわからない | ② 27.5 | 6.2 | 2.5 |
| 紙おむつか布おむつか迷っている | 0.8 | 0.4 | 0.2 |
| 母乳の出が悪い | 6.9 | 0.2 | 0.0 |
| その他 | 12.3 | 13.9 | 14.4 |

注1) 複数回答。

注2) <>は5ポイント以上、<<>>は10ポイント以上差があるもの。

注3) ()内はサンプル数。

表2-1-2 1歳児・子育ての悩み（2011年 全体・妻の就業形態別）



(%)

| | 1歳 全体 (568) | 仕事を している していない (198) | | 仕事をしている | | 仕事をしていない | |
|-----------------------------------|-------------------|-------------------------------|-------------|-------------|-------------|----------|------|
| | | 正社員 (106) | その他 (92) | 無職 (313) | 休職中 (53) | | |
| トイレトレーニングの時期・やり方がわからない | 46.3 | 33.8 | ④ 53.3 | 34.0 | 33.7 | 53.4 | 52.8 |
| ○○ちゃんの性質や性格が気になる | 25.2 | 23.7 | 26.2 | 24.5 | 22.8 | 27.5 | 18.9 |
| 生活リズムが規則的にならない (起床、就寝、睡眠リズムなど) | 21.7 | 14.1 | ④ 26.0 | 10.4 | 18.5 | 26.8 | 20.8 |
| 言葉の遅れが心配だ | 16.4 | 13.1 | < 18.3 | 9.4 | 17.4 | 19.8 | 9.4 |
| テレビやビデオの見せ方がわからない | 14.6 | 11.1 | < 16.4 | 11.3 | 10.9 | 17.3 | 11.3 |
| 体重が増えない | 10.9 | 8.1 | 12.3 | 8.5 | 7.6 | 12.8 | 9.4 |
| アレルギー（アトピーやぜんそくなど）のことで困っている | 9.3 | 10.6 | 8.7 | 14.2 | 6.5 | 9.6 | 3.8 |
| おもちゃや絵本の与え方がわからない | 7.7 | 5.6 | 8.7 | 5.7 | 5.4 | 9.3 | 5.7 |
| 安全な外遊びの場所がない | 7.2 | 3.5 | < 9.0 | 0.9 | 6.5 | 9.3 | 7.5 |
| 離乳食・幼児食の与え方がわからない | 6.2 | 3.0 | 7.9 | 2.8 | 3.3 | 8.6 | 3.8 |
| 体重が多すぎる | 4.4 | 5.1 | 4.1 | 5.7 | 4.3 | 4.5 | 1.9 |
| 紙おむつか布おむつか迷っている | 0.4 | 0.0 | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 0.3 | 1.9 |
| 母乳の出が悪い | 0.2 | 0.0 | 0.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.9 |
| その他 | 13.9 | 12.1 | 15.0 | 11.3 | 13.0 | 16.0 | 9.4 |

注1) 複数回答。

注2) 子どもが1歳の人のみ分析。

注3) 現在の就業形態をたずねた設問で、「正社員」「派遣・契約社員・嘱託」「パートタイム・アルバイト」「自営業・家族従業」「内職・在宅ワーク」「その他」と回答し、休業中ではないと回答した人を「仕事をしている」とし、「無職（専業主婦を含む）」と回答した人及び「休職中」と回答した人を「仕事をしていない」とした。

注4) 妻の就業形態の「その他」は、「派遣・契約社員・嘱託」「パートタイム・アルバイト」「自営業・家族従業」「内職・在宅ワーク」「その他」の合計。

注5) <>は5ポイント以上、<<>>は10ポイント以上差があるもの。

注6) ()内はサンプル数。

「子育てサークルの仲間」に相談する 母親が減少

次に、子育ての相談相手についてのデータをみていく。具体的には14の相談相手について、「いつもしている」「時々している」「1～2回はしたことがある」「したことはない」の4段階で回答してもらっている。図2-1-3は、妻が子育てに関する相談を「いつもしている」+「時々している」と回答した比率について、経年比較でみたものである。

2011年の上位3位は「配偶者(94.5%)」「あなたの親(88.3%)」「あなたの友人・知人(82.0%)」で、2006年から変わらない。いずれも8割以上が「相談している」と回答している。多くの母親が、身近な人たちにはよく相談していることがわかる。

専門家のなかでは、「保育士・幼稚園教諭(22.4%)」がもっとも多い。「保育士・幼稚園教諭」は2006年から若干ではあるが増加している。保育園に子どもを預けて働く母親の増加や、保育園・幼稚園による施設開放を親子で利用するケースがあることが、背景として考えられる。

ほかの専門家では、「〇〇ちゃんの産婦人科・小児科の医師(18.9%)」「〇〇ちゃんの

産婦人科・小児科の看護師・助産師(13.2%)」「保健師(12.6%)」が、いずれも1割台となっている。図表にはのせていないが、これらに相談を「1～2回はしたことがある」という人は3～5割程度いる。健診などの機会に相談したことはあるが頻繁に相談しているわけではない、という母親が多いのではないだろうか。

また、こちらも図表は割愛しているが、専門家のなかでは、「保健師」や「市区町村・民間の子育てサービス窓口の人」は、人口規模5万人未満の市町村で「相談している」比率が高いという特徴もある。居住地の人口規模別^{*1)}にみると、「保健師」は特別区・指定都市9.8%<5万人未満26.7%、「子育てサービス窓口の人」は5.2%<13.1%、となっている。地域によっては、自治体の制度・サービスが大きな役割を担っていることが推察される。

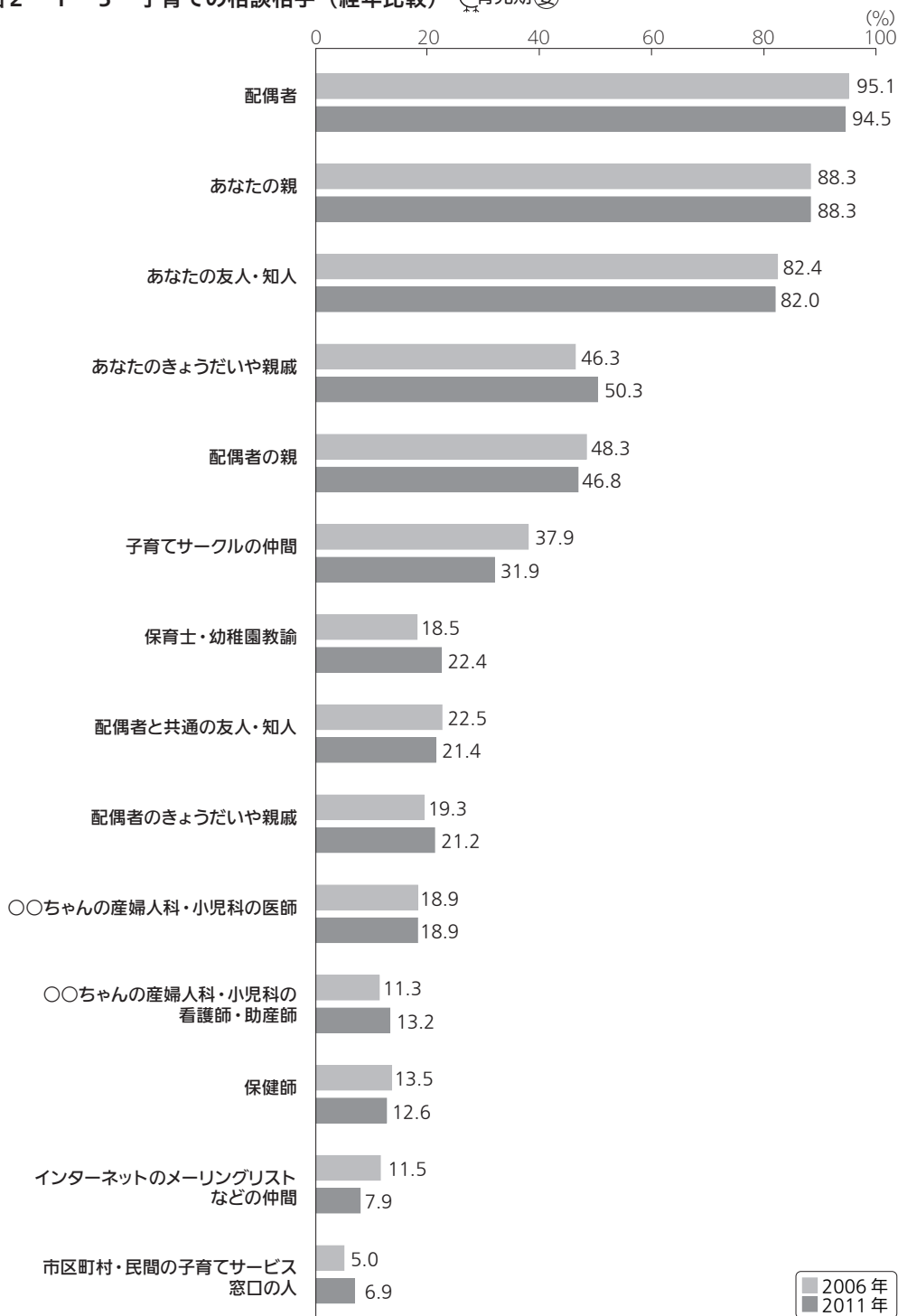
そのほかでは、「子育てサークルの仲間」は経年で6.0ポイント減少し、2011年では31.9%となった。仕事をしている等の理由で子育てサークルに参加する時間のない母親が増加したことも一因として考えられる。母親どうしのサポートの機会減少につながっていないか、今後も動向をみる必要があるだろう。

*1) 「特別区・指定都市」…特別区(東京23区)および2011年11月現在の政令指定都市19市。「15万人以上」…特別区・指定都市を除いた人口15万人以上の市町村。「5万～15万人未満」…人口5万人以上15万人未満の市町村。「5万人未満」…人口5万人未満の市町村(総務省統計局編『統計でみる市区町村のすがた2012』より)。

図2-1-3 子育ての相談相手（経年比較）



育児期妻



注) 「いつもしている」 + 「時々している」の%。

..... 子どもの年齢によって、相談相手も異なる

子育ての相談相手は、子どもの年齢によっても異なる。表2-1-3は子どもの年齢別に、相談を「いつもしている」+「時々している」の比率を示したものである。これを見ると、「配偶者」「あなたの親」「あなたの友人・知人」には、いずれの年齢でも8割以上が相談している。

「保育士・幼稚園教諭」は0歳児10.1% < 1歳児31.1% < 2歳児36.8%と、子どもの年齢が上がるにつれて多くなっている。保育園の託児率（第4章参照）も同様の傾向なので、その点が影響しているだろう。

逆に、「産婦人科・小児科の医師」「産婦人科・小児科の看護師・助産師」「保健師」は、0歳児でもっとも高く、1歳児・2歳児と徐々に減少している。

..... 仕事をしている母親の5割が 「保育士・幼稚園教諭」に相談している

子育ての相談相手は、母親自身の状況によっても異なる。表2-1-4は、相談相手を母親の就業状況別にみたものである。（子どもの年齢ごとに確認しても同様の結果がみられている。）

仕事をしていない人に比べて、仕事をしている人のほうで比率が高いものは、「保育士・幼稚園教諭」、「産婦人科・小児科の医師」である。とくに「保育士・幼稚園教諭（52.7%）」は、仕事をしている人の相談相手としては家族・親族や友人を除くともっとも高く、重要な役割を担っていることがわかる。

逆に現在仕事をしていない人のほうで比率が高いものは、「配偶者」、「子育てサークルの仲間」、「保健師」である。とくに「子育てサークルの仲間（35.6%）」は、仕事をしていない母親の相談相手のなかでは家族・親族や友人以外でもっとも比率が高くなっている。経年で減少しているとはいえ、専業主婦や休職中の人にとっては今もなお、子育てサークルが人間関係を築く場として主に機能していると考えられる。

このように、子どもの年齢や母親の就業状況によって、相談相手も異なっている。しかし、配偶者や親、友人など、身近な人たちにはよく相談している点はいずれの母親にも共通している。母親にとっては、身近な人、専門家、ピアサポート（母親どうしのサポート）などの力をうまく活用して、はじめての子育ての大変さを乗り切っていくことが重要であろう。

表2-1-3 子育ての相談相手（2011年 全体・子どもの年齢別）



(%)

| | 全体 (1,843) | 0歳 (872) | 1歳 (568) | 2歳 (403) |
|------------------------|---------------|-------------|-------------|-------------|
| 配偶者 | 94.5 | 94.7 | 95.1 | 93.0 |
| あなたの親 | 88.3 | 90.9 | 87.7 | 83.9 |
| あなたの友人・知人 | 82.0 | 82.3 | 80.8 | 82.7 |
| あなたのきょうだいや親戚 | 50.3 | 51.7 | 51.9 | > 44.9 |
| 配偶者の親 | 46.8 | 45.5 | 49.6 | 45.6 |
| 子育てサークルの仲間 | 31.9 | 29.5 | < 35.4 | 32.0 |
| 保育士・幼稚園教諭 | 22.4 | 10.1 | << 31.1 | < 36.8 |
| 配偶者と共通の友人・知人 | 21.4 | 21.8 | 20.6 | 21.8 |
| 配偶者のきょうだいや親戚 | 21.2 | 19.0 | 22.3 | 24.3 |
| 〇〇ちゃんの産婦人科・小児科の医師 | 18.9 | 21.6 | 19.5 | > 12.4 |
| 〇〇ちゃんの産婦人科・小児科の看護師・助産師 | 13.2 | 16.7 | > 10.9 | 8.7 |
| 保健師 | 12.6 | 16.8 | > 11.2 | > 5.2 |
| インターネットのメーリングリストなどの仲間 | 7.9 | 9.0 | 7.2 | 6.7 |
| 市区町村・民間の子育てサービス窓口の人 | 6.9 | 9.2 | 6.4 | 2.9 |

注1) 「いつもしている」 + 「時々している」の%。

注2) <>は5ポイント以上、<<>は10ポイント以上差があるもの。

注3) ()内はサンプル数。

表2-1-4 子育ての相談相手（2011年 全体・妻の就業形態別）



(%)

| | 全体 (1,843) | 仕事を している (453) | 仕事を していない (1,379) | 仕事をしている | | 仕事をしていない | |
|------------------------|---------------|----------------------|-------------------------|--------------|--------------|-------------|--------------|
| | | | | 正社員 (220) | その他 (233) | 無職 (978) | 休職中 (401) |
| 配偶者 | 94.5 | 90.3 | < 95.9 | 92.8 | 88.0 | 95.2 | 97.7 |
| あなたの親 | 88.3 | 87.7 | 88.7 | 85.9 | 89.3 | 88.0 | 90.5 |
| あなたの友人・知人 | 82.0 | 81.4 | 82.3 | 83.6 | 79.4 | 81.1 | 84.8 |
| あなたのきょうだいや親戚 | 50.3 | 48.3 | 50.9 | 44.1 | 52.4 | 52.0 | 48.4 |
| 配偶者の親 | 46.8 | 44.8 | 47.4 | 46.8 | 42.9 | 46.7 | 48.8 |
| 子育てサークルの仲間 | 31.9 | 20.7 | << 35.6 | 22.8 | 18.9 | 35.4 | 36.2 |
| 保育士・幼稚園教諭 | 22.4 | 52.7 | >> 12.6 | 61.3 | 44.6 | 11.8 | 14.2 |
| 配偶者と共通の友人・知人 | 21.4 | 24.7 | 20.3 | 26.8 | 22.7 | 18.6 | 24.4 |
| 配偶者のきょうだいや親戚 | 21.2 | 18.8 | 21.9 | 19.1 | 18.4 | 22.5 | 20.5 |
| 〇〇ちゃんの産婦人科・小児科の医師 | 18.9 | 23.2 | > 17.5 | 26.3 | 20.2 | 16.7 | 19.4 |
| 〇〇ちゃんの産婦人科・小児科の看護師・助産師 | 13.2 | 14.3 | 12.7 | 18.7 | 10.3 | 11.8 | 14.7 |
| 保健師 | 12.6 | 7.7 | < 14.3 | 7.7 | 7.8 | 12.4 | 18.7 |
| インターネットのメーリングリストなどの仲間 | 7.9 | 5.5 | 8.8 | 5.9 | 5.1 | 8.9 | 8.4 |
| 市区町村・民間の子育てサービス窓口の人 | 6.9 | 3.3 | 8.2 | 2.7 | 3.9 | 7.6 | 9.7 |

注1) 「いつもしている」 + 「時々している」の%。

注2) 現在の就業形態をたずねた設問で、「正社員」「派遣・契約社員・嘱託」「パートタイム・アルバイト」「自営業・家族従業」「内職・在宅ワーク」「その他」と回答し、休業中ではないと回答した人を「仕事をしている」とし、「無職（専業主婦を含む）」と回答した人及び「休職中」と回答した人を「仕事をしていない」とした。

注3) 妻の就業形態の「その他」は、「派遣・契約社員・嘱託」「パートタイム・アルバイト」「自営業・家族従業」「内職・在宅ワーク」「その他」の合計。

注4) <>は5ポイント以上、<<>は10ポイント以上差があるもの。

注5) ()内はサンプル数。

8割以上の母親が、子育てを通じて 充実感を味わっている

本節の最後に、母親の子育て意識、および子どもにとっての良質な環境のデータを取り上げたい。

図2-1-4は、母親の子育て意識を「充実感・成長感」と「負担感・不安感」に分けて示している。もっとも数値が高いのは、「子どもを育てることに充実感を味わっている」である。「あてはまる」で50.7%、「ややあてはまる」も加えると85.8%に達している。「子育てが楽しいと心から思う」も、「あてはまる」+「ややあてはまる」で74.7%になる。母親はさまざまなストレスや悩みを抱えている一方で、充実感や楽しさを味わっていることがわかる。

しかし、「親としてそれなりにうまくやれていると思う」や「子育てに自信が持てるようになった」では、「あてはまる」+「ややあてはまる」が3～5割程度にとどまる。また、「子どもがうまく育っているか不安になる」「子どものことでどうしたらよいかわからなくなることもある」は4～5割である。多くの母親が自信のなさや不安を経験しながら、育児に取り組んでいるようである。

約98%の母親が、子どもは「毎日を元気に 楽しく過ごせている」と回答

では、母親たちは子どもたちの育つ環境をどう評価しているのだろうか。過去2週間く

らしい生活を振り返ってもらったのが、図2-1-5である。

「毎日を元気に楽しく過ごせている(97.8%)」「母親と過ごす楽しい時間を持っている(89.2%)」「必要なだけの絵本やおもちゃを持っている(84.9%)」など、多くの項目で9割前後の母親が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答している。多くの母親は子どもが日々楽しく過ごせていると評価している。さらに、「父親と過ごす楽しい時間を持っている」が2006年から増加し、75.5%に達している。

一方で、2006年、2011年ともに、治療（医療）がかなり必要な子どもがわずかながら一定数いることは忘れてはならない。適切な治療が受けられ、かつ親子の身体・心理的負担、経済面での負担などが少しでも軽減される環境が望まれる。

ここで取り上げた母親の子育て意識と子どもにとっての良質な環境には、相関がある。詳細な分析は第6章で紹介されているが、母親が「充実感・成長感」といった肯定的な意識を抱いていると、子どもの生活も良質になることがわかっている。

本節でみてきたように、母親はそれぞれ置かれた状況のなかで、悩みやストレス・不安感を抱え、さまざまな人に相談しながら乗り越えている。はじめての子どもを持つ母親が、少しでも悩みやストレスを軽くし、自信を持って育児に取り組めるよう、社会全体でサポートしていけることが望ましいだろう。

図2-1-4 子育て意識 (2011年) 

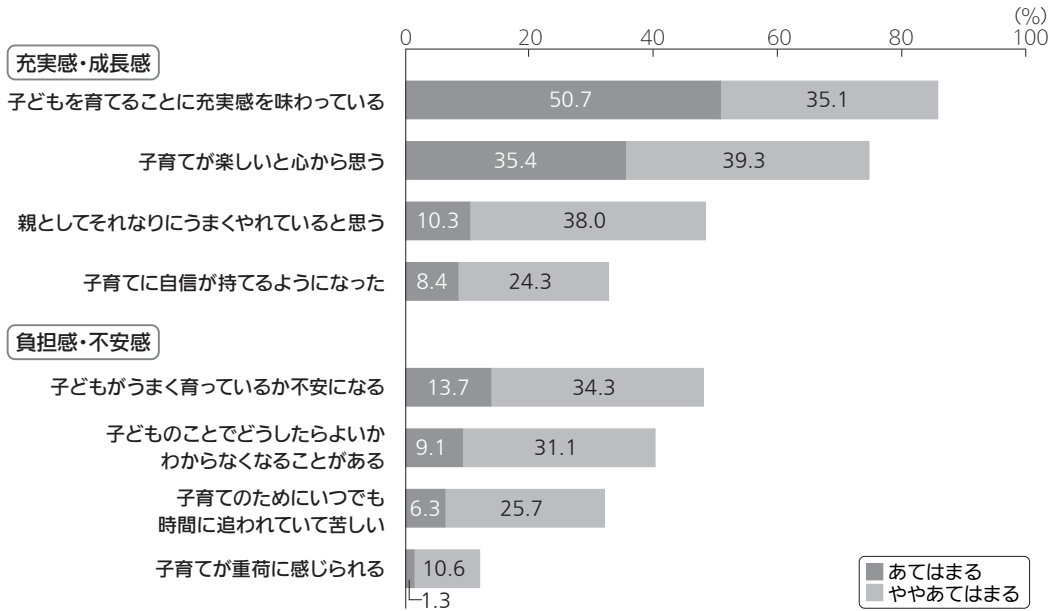

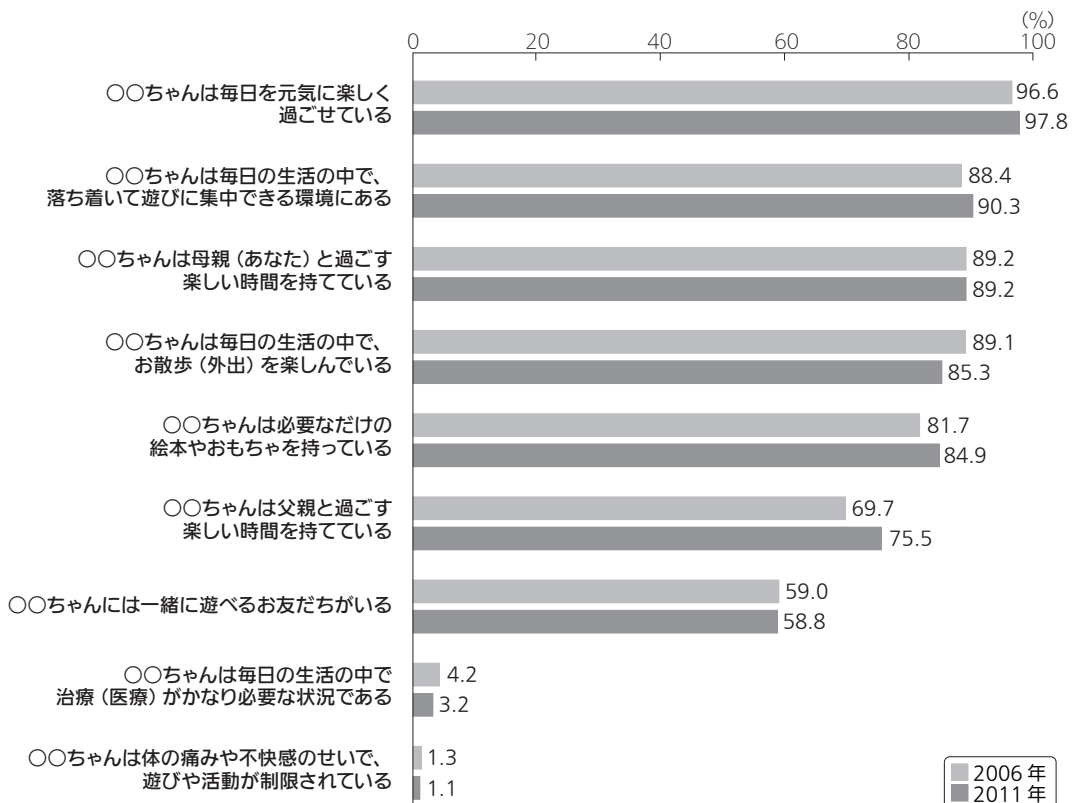


図2-1-5 子どもにとっての良質な環境 (経年比較) 



注) 「あてはまる」 + 「ややあてはまる」の%。

子育ての情報源

子育てに関する情報源では、「インターネット」「携帯サイト・配信サービス」が増加。母親の年齢や社会経済的な状況などによって、頼りにする情報源も異なっている。

「インターネット」「携帯サイト・配信サービス」が増加

第2節では、子育ての情報源についてみていきたい。育児期妻・夫それぞれに、子育てに関する情報を得るために利用したことがあるものを、複数回答で選んでもらった結果が、図2-2-1である。ここから大きく3点の特徴が浮かびあがる。

第一に、2006年と比べて「インターネット」「携帯サイト・配信サービス」が増加している。「インターネット」は妻で70.4%→81.6%と約10ポイント増加、夫では52.9%→72.8%と約20ポイント増加している。とくに夫では雑誌の60.1%を上回り、すべての項目のなかでもっとも高くなっている。「携帯サイト・配信サービス」も同様に増加し、妻では41.1%に達している。

第二に、「雑誌」「新聞」が減少している。とくに妻の「新聞」は42.8%→25.8%へと、17.0ポイント減少している。ただし、「雑誌」は減少したものの、妻で85.5%、夫で60.1%となっており、子育ての主要な情報源として変わらず位置づけられていることがわかる。

第三に、夫では「テレビ・ラジオ」が

10.0ポイント増加し、63.9%に達している。この5年間で、子育て中の男性タレントや自治体の首長が「イクメン」としてテレビで取り上げられたり、子育て番組に父親が出演する機会が増えたりしている。男性にとっても、より利用しやすい情報源として認知されてきたのかもしれない。

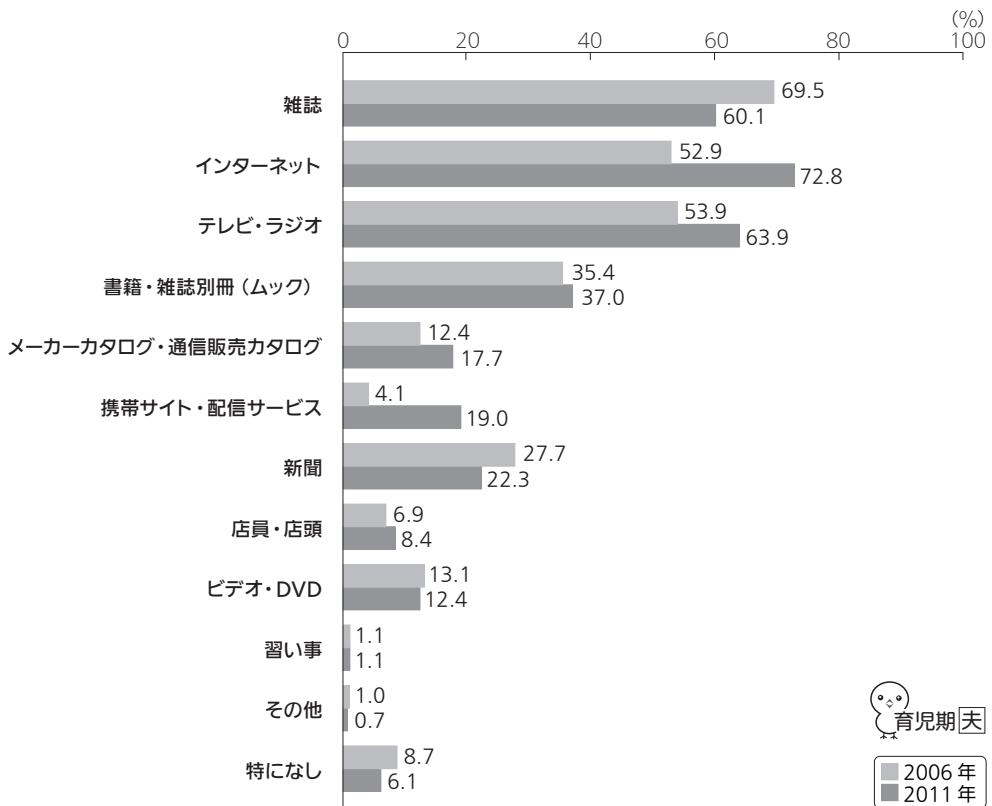
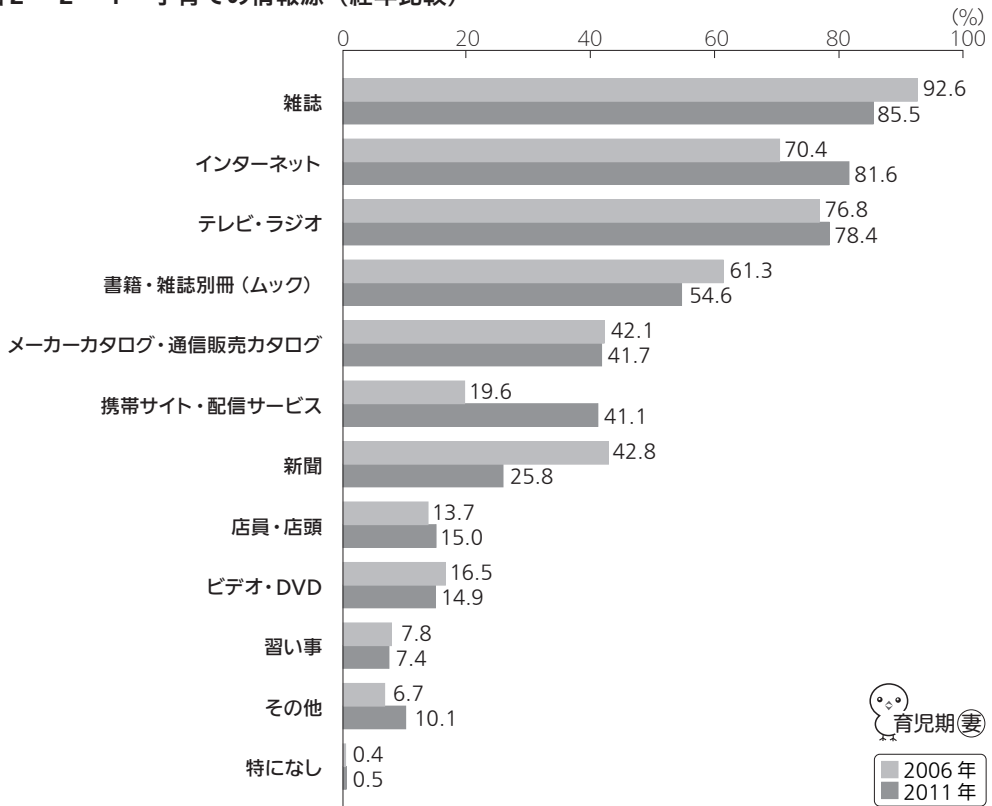
「携帯サイト・配信サービス」は、若い母親で情報源とする人が多い

最後に、2011年度のデータに限定して、どのような母親が、どの情報源を用いているのか分析する。

表2-2-1は、母親の年齢別にみた情報源である。年齢差がもっとも顕著に出ているのは、「携帯サイト・配信サービス」であろう。40歳以上の母親では20.6%であるのに対して、24歳以下の母親では70.0%に達している。若い母親ほど、情報源としてより多く用いていることがわかる。

逆に、「新聞」「店員・店頭」は、若い母親で少なくなっている。また、40歳以上では「メーカーカタログ・通信販売カタログ」がほかの年齢層と比べて高くなっているのが特徴的である。

図2-2-1 子育ての情報源（経年比較）



注1) 複数回答。

注2) 13項目中、12項目を图示。


.....
**母親の社会経済的な状況によっても、
 情報源には違いがみられる**

表2-2-2は、妻の最終学歴別、世帯年収別にみたものである。「インターネット」や「書籍・雑誌別冊（ムック）」は、学歴別にみると大学・大学院卒、世帯年収別では600万円以上がもっとも高くなっている。

一方で、「雑誌」や「テレビ・ラジオ」は、学歴や世帯年収による差が少なく、大半の母親が利用している。また、「携帯サイト・配信サービス」は、学歴別にみると専門学校卒など（「中学校」+「高等学校」+「専門学校」


+「高等専門学校」+「その他」）（46.3%）、世帯年収別では400万円未満（46.8%）がもっとも高くなっている。

以上のように、母親の年齢や社会経済的な状況などによって、頼りにする情報源も異なっている。子育てサービス・支援などの情報を提供する際にも、どのような媒体を用いればより届けたい母親に届けることができるのか、考慮する必要があるだろう。また、メディア技術の発展にともない、今後も情報収集手段は変化していくことが予想される。引き続き注目していく必要があるだろう。

表2-2-1 子育ての情報源（2011年 全体・妻の年齢別） (%)

| | 全体 (1,843) | 妻の年齢別 | | | | |
|-------------------|---------------|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|----------------|
| | | 24歳以下 (100) | 25~29歳 (453) | 30~34歳 (686) | 35~39歳 (427) | 40歳以上 (102) |
| 雑誌 | 85.5 | 92.0 | 87.6 | 86.3 | 82.9 | > 76.5 |
| インターネット | 81.6 | 74.0 | < 82.6 | 84.7 | > 78.9 | 80.4 |
| テレビ・ラジオ | 78.4 | 76.0 | 78.8 | 78.3 | 78.9 | 76.5 |
| 書籍・雑誌別冊（ムック） | 54.6 | 48.0 | < 55.0 | 55.7 | 54.8 | 53.9 |
| メーカーカタログ・通信販売カタログ | 41.7 | 40.0 | 41.3 | 41.8 | 42.4 | ≪ 53.9 |
| 携帯サイト・配信サービス | 41.1 | 70.0 | ≫ 55.8 | ≫ 38.6 | > 28.8 | > 20.6 |
| 新聞 | 25.8 | 11.0 | < 17.9 | ≪ 28.9 | 32.8 | 32.4 |
| 店員・店頭 | 15.0 | 11.0 | < 17.0 | 13.8 | 14.3 | ≪ 24.5 |
| ビデオ・DVD | 14.9 | 7.0 | < 12.4 | 15.5 | 17.1 | 16.7 |
| 習い事 | 7.4 | 2.0 | 4.2 | 7.9 | 10.1 | 13.7 |
| その他 | 10.1 | 8.0 | 8.4 | 11.7 | 10.5 | 12.7 |
| 特になし | 0.5 | 2.0 | 0.4 | 0.3 | 0.7 | 0.0 |

注1) 複数回答。
 注2) 13項目中、12項目を図示。
 注3) <>は5ポイント以上、≪≫は10ポイント以上差があるもの。
 注4) ()内はサンプル数。

表2-2-2 子育ての情報源（2011年 全体・妻の最終学歴別・世帯年収別） (%)

| | 全体 (1,843) | 妻の最終学歴別 | | | 世帯年収別 | | |
|-------------------|---------------|----------------------|--------------|----------------------|----------------------|--------------------------|----------------------|
| | | 大学・ 大学院卒 (588) | 短大卒 (404) | 専門学校 卒など (801) | 400万円 未満 (363) | 400~600 万円未満 (503) | 600万円 以上 (456) |
| 雑誌 | 85.5 | 86.9 | 84.9 | 84.9 | 88.2 | 86.1 | 86.8 |
| インターネット | 81.6 | 90.3 | ≫ 79.2 | 76.8 | 76.6 | < 82.9 | < 89.5 |
| テレビ・ラジオ | 78.4 | 81.0 | 78.5 | 76.3 | 77.1 | 81.5 | 78.7 |
| 書籍・雑誌別冊（ムック） | 54.6 | 67.5 | ≫ 53.5 | > 46.3 | 51.0 | 54.7 | < 64.5 |
| メーカーカタログ・通信販売カタログ | 41.7 | 47.6 | > 41.6 | 38.5 | 41.0 | 41.9 | < 49.6 |
| 携帯サイト・配信サービス | 41.1 | 36.2 | 38.1 | < 46.3 | 46.8 | > 41.7 | 39.5 |
| 新聞 | 25.8 | 30.4 | 29.2 | > 21.2 | 24.2 | 23.9 | < 31.6 |
| 店員・店頭 | 15.0 | 19.0 | > 11.4 | 14.1 | 15.2 | 11.9 | < 17.1 |
| ビデオ・DVD | 14.9 | 10.7 | 15.1 | 17.4 | 16.3 | 11.5 | 14.0 |
| 習い事 | 7.4 | 10.2 | 6.7 | 5.7 | 3.6 | 7.6 | 11.2 |
| その他 | 10.1 | 11.1 | 9.4 | 10.0 | 12.4 | 9.9 | 10.5 |
| 特になし | 0.5 | 0.0 | 0.2 | 1.0 | 0.6 | 0.0 | 0.0 |

注1) 複数回答。
 注2) 13項目中12項目を図示。
 注3) 学歴の内、「専門学校卒など」は、「中学校」「高等学校」「専門学校」「高等専門学校」「その他」の合計。
 注4) <>は5ポイント以上、≪≫は10ポイント以上差があるもの。
 注5) ()内はサンプル数。

子どもとの過ごしかた

テレビやDVDを見る子どもが増え、視聴時間が長くなった。外遊びの時間は若干短くなった。

テレビやDVDの視聴が長時間化

第3節では、子どもが家で過ごす時間についてのデータを取り上げる。

図2-3-1は、0～2歳の子どもが4種類の活動を「ふだんの日、どれくらいしているか」、たずねた結果を示したものである。経年での大きな変化として、テレビやDVDの視聴時間がのびていることがわかる。

詳細をみていくと、「テレビを見る」は「0分」（＝見ない、見せない）が2006年18.2%→2011年13.3%へと約5ポイント減少した。一方で、「3時間以上」の長時間視聴層は10.1%→16.0%へと増加した。平均時間も67.8分→81.1分へと伸びている。

「ビデオ・DVD（合わせて）を見る」でも、

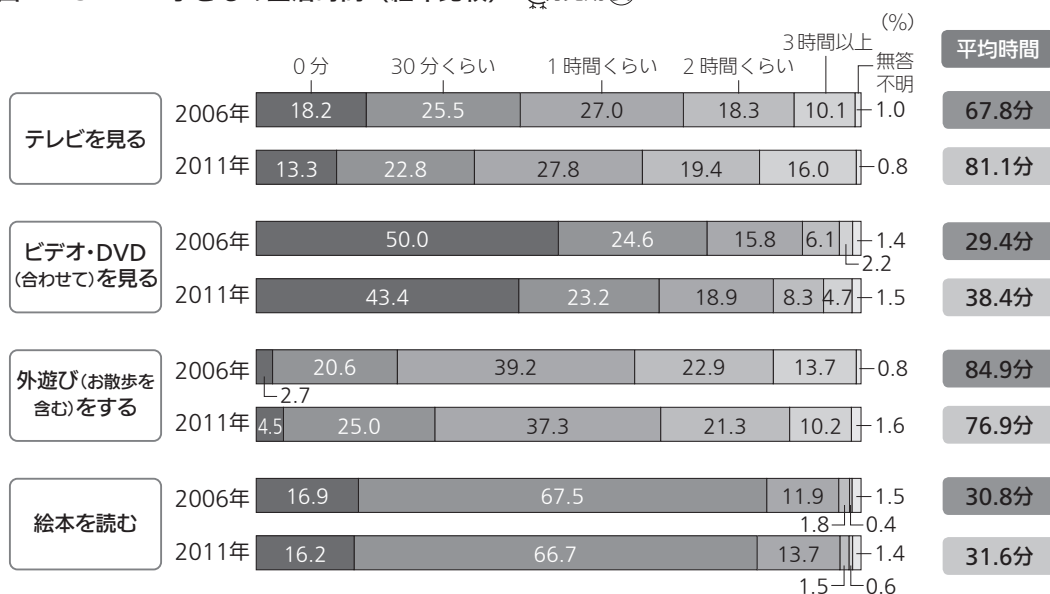
「0分」（＝見ない、見せない）が50.0%→43.4%へと減少し、子どもがDVDを見ている家庭が増えていることがわかる。平均時間をみると、29.4分→38.4分へと伸びている。

逆に、「外遊び（お散歩を含む）をする」の時間は短くなっている。0分～30分くらいの短時間層が増えた結果、平均時間でみると84.9分→76.9分へと、8分短くなっている。

「絵本を読む」は経年では大きな変化がみられず、2006年、2011年ともに「30分くらい」が7割弱ともっとも多い。

ではなぜ、テレビやDVDの視聴時間がのび、外遊びの時間が減ったのだろうか。さらなる分析と解釈を、次ページで行いたい。

図2-3-1 子どもの生活時間（経年比較）



注1) 「0分」＝「見ない・しない」＋「見せない・させない」、3時間以上＝「3時間くらい」＋「4時間くらい」＋「5時間以上」。
 注2) 平均時間は「見ない・しない」「見せない・させない」を0分、「5時間以上」を300分のように置き換えて、無答不明を除いて算出した。

テレビやDVDの視聴が長時間化した背景とは？

図2-3-2は子どもの年齢別に、「テレビを見る」「ビデオ・DVD（合わせて）を見る」の時間を算出したものである。0～2歳のいずれの年齢でも、視聴時間の長時間化傾向がみられる。テレビはとくに、0歳児ののびが大きい。2006年には「0分」（＝見ない、見せない）が33.3%に達していたが、2011年では10ポイント以上減少し、21.9%にとどまっている。逆に「3時間以上」は4.3%→12.9%へと増加し、平均時間は42.8分→64.2分にのびている。1歳児・2歳児でも、0歳児ほど顕著な変化ではないものの、同様に長時間化の傾向がみられる。平均時間は1歳児87.1分→94.9分、2歳児89.5分→98.1分とのびている。

「ビデオ・DVDを見る」の時間でも、同様の傾向がみられる。こちらはとくに1歳児ののびが顕著で、平均時間でみると36.9分→53.9分へと、17分のびている。「0分」（＝見ない、見せない）が大きく減少した点が影響している。

ではなぜテレビやDVDの視聴時間がのびたのだろうか。第一に東日本大震災の影響が考えられる。調査実施時（2011年11月）はちょうど、放射線量が局所的に高い「ホットスポット」が問題視されてきたころであった。小さい子どもを持つ母親が外出や外遊びを控え、室内で過ごす時間が長くなったこと

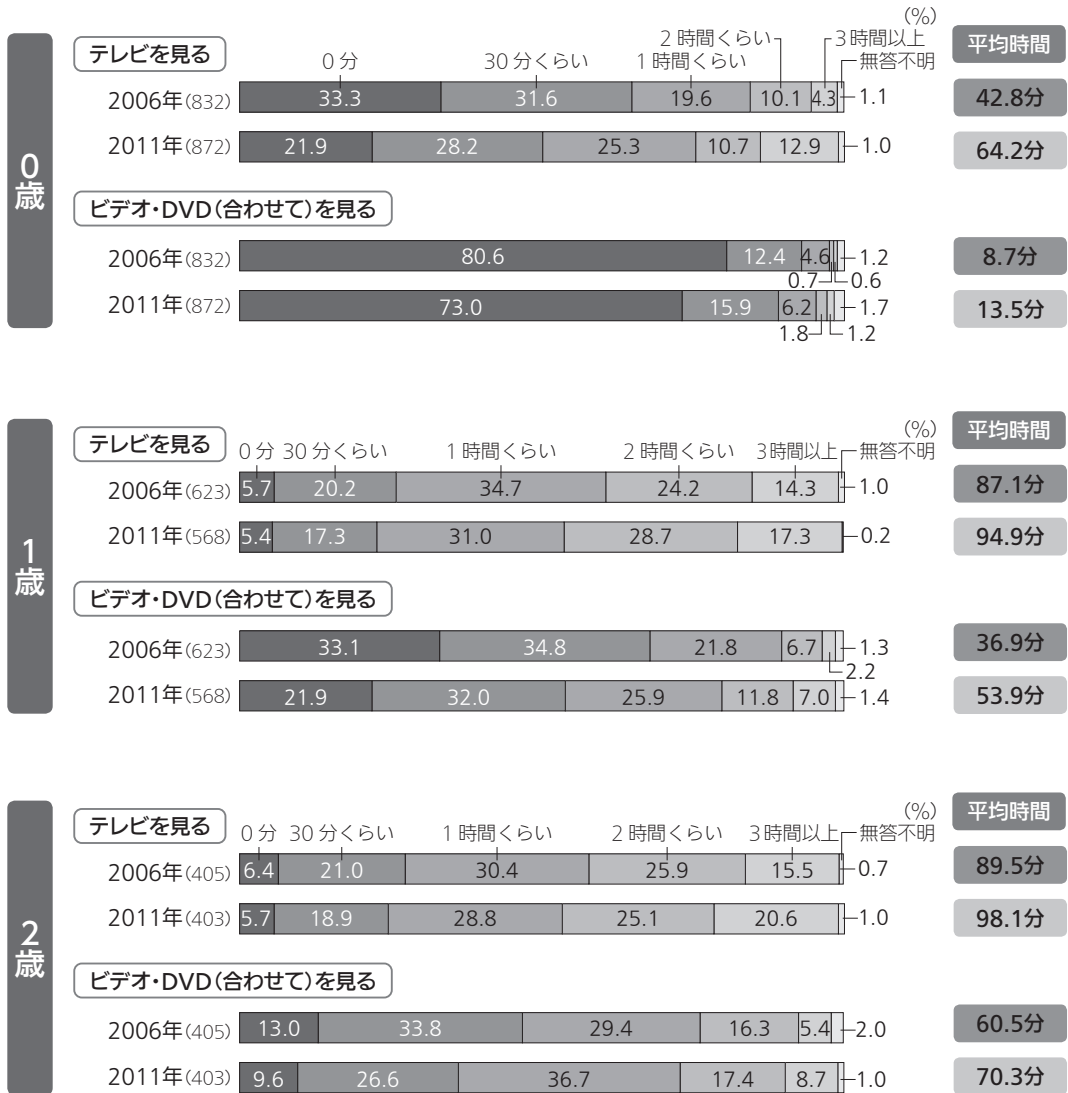
が考えられる。なお、外遊びを控える動きはとくに東北で強く、表2-3-1にあるように、他の地域と比べて外遊びを「しない・させない」と回答した母親が多くなっていた。

第二に、2006年調査時にはテレビ視聴を控える動きが強かった可能性が考えられる。2004年に日本小児科学会・日本小児科医会が乳幼児のテレビ・ビデオ視聴に関する緊急提言を発表し、大きな話題になった。この影響を受けて、2006年調査時にはテレビ視聴を「させない」意識が親たちの間でも強かったのかもしれない。

第三に、この5年間で多様なメディアが登場し、相対的にテレビに対する拒否感が小さくなった可能性も考えられる。現在の乳幼児は、生まれたときからスマートフォン、タブレット型の情報端末などが身近にある環境で育っている。親世代も、小さいころから子ども番組やテレビゲームに接しており、現在も多様なメディアを使いこなしている。テレビやDVDだけではなく、そうした多様なメディアと子どもの距離をどう考えるか、という課題が新たに浮上している。

以上のようなさまざまな要因が絡み合っ、て、視聴の長時間化につながったものと考えられる。ただし、長時間化だけで生活の質が低下するとはいい切れないだろう。視聴の具体的な内容、複数のメディアへの接触時間、総合的に子どもが日々どのような遊び・体験をしているか、という観点から、今後も動向を見極めていく必要がある。

図2-3-2 子どものテレビ・DVD視聴時間（経年比較 子どもの年齢別）



注1) 「0分」 = 「見ない・しない」 + 「見せない・させない」、 「3時間以上」 = 「3時間くらい」 + 「4時間くらい」 + 「5時間以上」。
 注2) 平均時間は「見ない・しない」「見せない・させない」を0分、「5時間以上」を300分のように置き換えて、無答不明を除いて算出した。

注3) () 内はサンプル数。

表2-3-1 外遊び(お散歩を含む)を「しない・させない」(2011年 全体・地域別)



| 全体 (1,843) | 地域別 | | | | | | | | |
|---------------|-------------|------------|-------------|--------------------|-------------|-------------|------------|------------|--------------------|
| | 北海道 (67) | 東北 (69) | 関東 (614) | 北陸・ 甲信越 (95) | 東海 (273) | 近畿 (289) | 中国 (94) | 四国 (42) | 九州・ 沖縄 (168) |
| 4.5 | 6.0 | 10.1 | 3.6 | 4.2 | 6.2 | 3.4 | 5.3 | 2.4 | 5.4 |

注1) 「しない」 + 「させない」の%。

注2) () 内はサンプル数。